

講演

演題 夢と絆

講師 新潟産業大学特任教授 蓮池 薫

みなさん、こんにちは。こちら神奈川県にある横田早紀江さん、めぐみさんのお母さんですが、早紀江さんが「神様、あと2年だけ時間をください。」とおっしゃっていました。つまり、私は拉致問題というのは親が子に会いたい、というところからはじまった問題だと思っています。親が亡くなってしまったら、この問題に何の意味があったのかということです。今日はこの問題の実際を知っていただいて、私の体験もお話しさせていただいて、拉致問題の解決に繋げるような形で聞いていただけたらと思います。

そもそも拉致問題というのは、マフィアとか暴力団が人を連れ去って金儲けをすとかいう犯罪ではありません。国家がトップの指示のもとに、そして政治とは全く関係のない人を連れ去ったということです。現在日本で拉致認定されているのは17人です。3人は身代わり、警察では背乗りといっていますが、スタッフが実在する他人の身分・戸籍を乗っ取ってその人になりすますための拉致です。一番多い11人は横田めぐみさんや私のような場合で、目的は外国人スパイとして利用する目的で拉致した人です。北朝鮮のスタッフでも若い人はほとんど日本語が話せませんから、このスタッフを教育するために拉致をした。この問題が発覚したのは、ある新聞記者がどうみても結婚間近のカップルが3組も失踪したのはおかしいと思って調べ始めて、拉致未遂になった人にたどり着いた。その被害者はさるぐつわをされていたんですが、このさるぐつわが粗悪品で、とても国内で作られていたものではない、というところからいろいろ調査が始まり、その後ソウルで北朝鮮のスタッフが逮捕され、持っていた身分証明書から、さっきの背乗りがわかったり、大韓航空機爆破事件の犯人が捕まって、その人が日本語を教わった人が埼玉県田口八重子さんだということがわかったりし

て17人の拉致認定がされたわけです。北朝鮮も拉致があったことは認めましたが、これは一部の人間がやったことで、その犯人は処刑したと言ってきた。私は処刑リストを見ましたが全く別の件で処刑された人たちでした。さらに5人は返すが、8人は返せない、先ほどの田口八重子さんなどは返せば大韓航空機爆破事件の真相が明らかになる可能性があるわけですから返せない。ですから8人は亡くなったという報告があった。これには日本の家族会が反発した。あんな若い年で8人も亡くなるわけがない。調査団が派遣されましたが、北は墓が洪水で流されて7人の遺骨はないと言ってきた。1人だけ遺骨が渡されましたが、当時土葬だったのにこの骨は2度焼かれていることがわかった。さらに性別も年齢も亡くなったとされる人とは別人だった。

日本政府の中には核廃絶が先でしょという人もいますが、拉致被害者を返してくれたら経済援助をしますよといえれば北は動くかもしれない。私は日本に帰ってきましたが残された人に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。演題の「夢と絆」ですが夢というものは自分が自由でなければあり得ない。めぐみさんは死んだことになっているから更に厳重な監視のもとに暮らしていると思います。そんな中で横田滋さんはお亡くなりになった。今でも遅いくらいです。どうか拉致被害者に夢と絆を繋げたい。これが本日の次第です。ありがとうございました。

